



株式会社横森製作所

東京都家具健康保険組合

Profile

- 本社所在地：東京都渋谷区
- 業 種：鉄骨階段の設計・製造・施工
- 社 員 数：約550人

1951（昭和26）年に創業し、2021（令和3）年12月に70周年を迎えた株式会社横森製作所。家庭用の金物を製造する個人商店から始まり、やがて組立式の鉄骨階段を自ら考案する階段メーカーへと変貌し、今や世界でも稀な鉄骨階段専門の会社として知られるようになっていきます。東京の六本木ヒルズ森タワー、大阪のあべのハルカスほか、200メートルを超える日本の高層ビルの約8割が横森製作所の鉄骨階段を採用。その実績は発注者からの厚い信頼を得ている証といえます。

同社は2020（令和2）年3月に健康企業宣言を行い、2021（令和3）年5月「銀の認定」を取得しました。今回は、本社総務部の神田正俊さんと八本あさみさん、東京都家具健康保険組合（以下、家具健保）の遠藤スミレさんと岡満隆さんにお話をうかがいました。



◀左から神田さん、八本さん、遠藤さん、岡さん



挑戦のきっかけ

公に宣言することでモチベーションが高まる

——健康企業宣言に参加することになった経緯をおしえてください。

神田：健康経営に関しては総務としてどういった取り組みが出来るのか以前から調べていたのですが先代社長の有明利昭がホワイト500に関連したセミナーを受ける機会がありまして、それをきっかけにして69期の会社方針で「ホワイト500を目指す会社にしましょう」と話し、本格的に取り組み始めました。ただ総務としては、まず何から取りかかったらよいのかわからない中で、家具健保に相談したところ「健康企業宣言」（銀の認定）の存在を教えていただき、それが弊社の現状に合致した取り組みであるということでエントリーすることになりました。



この制度が魅力的なのは、まず宣言を行い、その先に認定があるところです。社内外に「健康企業宣言」をオープンにすることで、社員の意識も変わったと思います。また、目標を掲げることで、よりそれを達成するまでのモチベーションが高く維持できる様になると思いました。

宣言の内容は「健診を100%受診します」「健診結果の活用をします」「健康づくり環境を整えます」「食」に取り組めます」「運動」に取り組めます」「禁煙」に取り組めます」「心の健康」に取り組めます」というものでした。家具健保にいろいろとアドバイスをいただきながら取り組みました。

——家具健保では、「健康企業宣言」（銀の認定）の取得に向けてどのようなサポートを行ったのですか。

岡：家具健保では、健診受診率等のデータ提供をはじめ、各事業所への血圧計の設置、禁煙や階段の利用を促すポスターの送付といったサポートを行いました。横森製作所では、各種ポスターの掲示など常に積極的に動いていただいたので、認定取得までの道



のりもスムーズでした。

遠藤：銀の認定を受けるには、健診の受診率と保健指導の部分が重要になってきます。横森製作所には「健診受診率の向上」を意識していただき、家具健保としては各拠点を網羅する形で保健指導を行ってきました。



取り組みの中で見えてきたもの



禁煙のすすめと

無農薬野菜の提供を積極的に

——宣言後に見えてきたもの、注力した課題、苦労されたことなどはありますか。

神田：健診の受診率は向上しました。残念ながらまだ100%ではありませんが、それに近い数字になっています。健診結果の活用も従来以上に進めることができたと感じています。そんな中、今後の大きな課題として見えてきたのは、やはり禁煙への取り組みでしょうか。

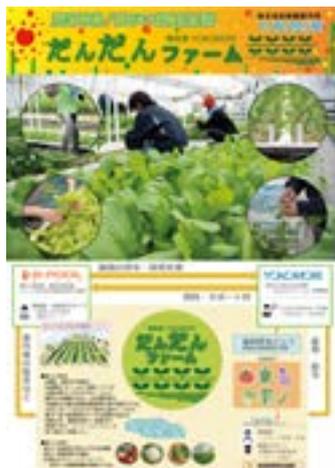
八本：弊社はもともと喫煙率が高く、2021年7月時点で全社員の34.1%となっております。これは国内の喫煙率を大きく上回っている状態で、この改善が急務と認識しました。以前は事業所まかせで、喫煙所の状況すら把握していなかったもので、まず初めに社内アンケートを実施しました。



神田：アンケートを実施したところ、喫煙者の多くが、タバコをやめることを意識しているものの、なかなか踏み切りがつかないということが分かりました。タバコは値上がりしているし、まわりからも「そろそろやめたら」といわれる。それでもやめられない。そこで、会社として禁煙をすすめていくという姿勢を示せば、「会社に禁煙すると言われたから、やめてみようか」と決心する人も出てくるかもしれない。そう考えて、積極的に禁煙に関して取り組んでいくことにしました。

個人的な話で恐縮いたしますが、私の父が肺がんで亡くなりました。病気の発覚からわずか数カ月と、あっという間の出来事でした。本人もそうですが、残された家族も非常につらいものです。そういった経験もあって、禁煙への取り組みは積極的に発信していきたいと思っています。

八本：食に関する取り組みとして挙げられるのは、農園事業です。埼玉で借りた農園で、障がいのある方を雇用し、水耕栽培で野菜を育てています。収穫した野



菜は社員に福利厚生の一環として配布します。よくある野菜だけでなく、モロヘイヤや、珍しい品種のブロッコリーなど、店頭で見かけない、自分ではあまり購入しないようなものもあります。それらをどのように調理しようかと考えていただただけでも、野菜を知るきっかけになったり、ご自分が口にする食べ物への意識が変わっていくと思います。さらに、水耕栽培で農薬を使っていない安全な食材ですから、そういった角度からも、学びのきっかけになるのではないかと思います。

神田：弊社は男性の比率が高いのですが、本社で野菜を配ると、すぐになくなってしまふほどの人気です。社員には、持ち帰っていただいた野菜で何か料理をした際は、どのようなものを作ったか写真を撮って教えていただくようお願いをしています。写真や社員の方々の反応は、農園のスタッフへフィードバックしています。これは農園で働く人たちの励みになっていると同時に、この事業が期待以上にいい効果を生んでいることの証として、私たちは受け止めています。

社員の意識を高めるツールの提供



健康チャレンジカードの配布とオリジナルポスター

——社員の方々に高い意識をもって取り組んでもらうために工夫されたことはありますか。

神田：健康への意識の変化につなげたいと思って進めたのは、「健康チャレンジカード」の配布です。名刺サイズで、表面には先代社長の有明利昭のメッセージとして「社員が本当に会社を好きになるような経営をしていきます。自分の会社が好きになれば必ずお客様に対しても自信を持ってお勧めできるようになります」と入り、健康への取り組みが箇条書きされています。裏面には、「私の健康宣言」という枠があり、そこに自分自身で課題を書き込むようになっていいます。このカードを財布に入れるなどして常に携帯することで、健康に関する意識を持ち続けてほしいと思っています。



健康チャレンジカード

八本：健康イベントとして、弊社は大阪のあべのハルカスで行われる「HARUKAS SKYRUN (ハルカススカイラン)」のメインスポンサーになっています。これは「階段垂直マラソン」といって、高層ビルの非常階段を駆け上がるマラソンレースの一つで、このような大会は世界の主要都市でも開催されています。コロナ禍の2020年には、スマホアプリを利用して宇宙のどこまで行けるかチャレンジするバーチャルイベントという形で開催いたしました。弊社の社員も数多く参加しており、成績優秀者には

社内表彰も行いました。こうしたイベントに参加することで、社員の健康への意識がより高まることを期待しています。

神田：そのほか弊社では、社員の健康意識がより高まるようポスター作成にも工夫を凝らしています。今ではSNSも活用して情報発信していますが、見ようとならない人には十分に伝わりません。その為、社員の目に留まりやすいところにポスターを掲示することで全ての社員に情報が届くようにしています。

また、今後禁煙に関する取り組みとして、毎月22日に「スワンデー」（敷地内終日全面禁煙）を実施することになりましたが、このポスターも八本がオリジナルで作成しています。スワンデーとは世界禁煙デーを参考にしたもので、数字の2が白鳥（スワン）に似ていることから、22日はスワン吸わんで禁煙の日とする取り組みです。「健康経営とは何か」を周知するポスターについても、社員の目に留まるように、またそれだけでなくすべての社員に健康への意識を強く持ってほしいという私たちの想いが届くように、オリジナルのものを作成しています。



オリジナルポスター

八本：オリジナルで作ることで社員向けに分かりやすい内容に出来ますし、その方がメッセージとして強く伝わると信じて作成しています。ポスターだけでなく、さまざまな告知や案内のリーフレットなども、できるだけオリジナルで作成するようにしています。例えば家具健保では保健事業の一つとして禁煙サポートプログラムを実施していますが、こちらも弊社独自のリーフレットを作成しました。これらを基に、令和4年2月から喫煙率低下の数値目標を定め、本格的に禁煙に関する取り組みをスタートします。



禁煙サポートプログラム募集要項

健保組合との関係と今後の目標



デジタルツールの活用にも期待したい

——銀の認定を取得して、今後、健康保険組合との関わりについて、どのようにお考えでしょうか。

神田：弊社と家具健保とはとても長いお付き合いで、いつもさまざまなご提案やご協力を賜り、社員の健康に深く関わっていただいています。これまでと変わらないお付き合いをさせていただければと思います。

遠藤：横森製作所は神田さんをはじめ、健康に関する意識を高く持っている方が多く、常に積極的に取り組んでいる会社だなという印象です。毎回担当している特定保健指導のほかにも、例えば新入社員の研修の中で、健康に関する指導や講義の時間を作っていただくなど、従業員に対して積極的に健康意識の醸成を行っている会社であると理解しています。

神田：今後、家具健保と一緒に健康経営をすすめていくうえで家具健保の推進されている「マイヘルスウェブ」の活用が重要になってくると思います。

岡：「マイヘルスウェブ」は、スマートフォンでインフルエンザ予防接種の補助申請、医療費の情報や健診結果及び健康度の確認までできるたいへん便利なツールです。

遠藤：写真を撮るだけで食べ物のカロリーが表示されるアプリもあります。

八本：社員の方々にはどんどん活用していただきたいと思い告知を続けています。一度使ってみれば便利なツールであるとわかっていただけたと思います。

神田：今後の目標は、やはり69期の会社方針に出てきた「ホワイト500」を目指したいと思っています。健康経営優良法人2022の認定が取得できる見込みなので、来年以降はその先にあるホワイト500を狙っていきたいと思います。健康経営に関しては、まだまだこれからという段階ですが、社員の意識も変わりつつあります。さまざまな情報発信ツールを活用して、地道にコツコツと取り組んでいきたいと思っています。



あべのハルカス「HARUKAS SKYRUN」